

パネルディスカッション

開催日：平成25年11月22日（金）
会場：秋田県児童会館けやきシアター

『学校における防災教育と地域の役割』



コメンテーター

国立大学法人 滋賀大学
教授 藤岡 達也 氏



- ・ 避難訓練においては、様々な災害を想定したり、様々な時間帯に行ったりするなど訓練を多様化させることが大切である。
- ・ 今後は、地域の避難訓練に参加するなど、学校以外の場で防災について学んだり、訓練したりすることはできないかと思う。
- ・ 地域の良さや自然のすばらしさについて知的・体験的に学ぶことは大切である。ただし、その中には危険もあるということを学んでほしい。
- ・ 子どもだけ、地域だけということではなく、学校と地域が一緒になって防災について学ぶ機会を設けてほしい。

コーディネーター

県立能代工業高等学校
校長 小野 巧 氏



- ・ 東日本大震災においては、秋田県では子どもの被害は比較的少なかったと思う。
　　今後は、当事者意識を皆でもつことが大切である。
- ・ 教育研修に防災教育を含む安全教育を位置付けるなど、防災教育に関する研修の場を充実させることができるのではないかと思う。
- ・ 各学校等では、引き渡しについて体験的な訓練を行うなど、あらかじめ取り決めを設けておくことが大切であろう。
- ・ 防災に関する学習や体験について、継続して行うことが大切である。

パネリスト1

国立大学法人 秋田大学
准教授 鎌滝 孝信 氏



- ・ 防災教育派遣事業において、学校等に出向いて授業を行っている。少しでも、防災の大切さについて理解してほしいと思っている。
- ・ 防災に関する正しい知識を学ぶことで、いざという時に柔軟な対応をとることができるような人になってもらいたいと思っている。

パネリスト2

秋田地方気象台
防災管理官 福山 佳之 氏



- ・ 防災教育に関する啓発活動を今後も推進していきたい。
- ・ 特別警報の運用が、平成25年8月30日より開始した。
各校にも、こうした内容を伝え、様々な災害へ備えていただきたい。

パネリスト3

にかほ市立象潟中学校
教頭 佐々木克也 氏



- ・ 防災教育推進モデル地域における学校・地域連携事業に取り組み、生徒の防災に関する意識の向上が図られた。
- ・ 象潟中学校と仁賀保高校との連携により、先輩からの生きた実践から、防災について学ぶことができたことは貴重な体験であった。

パネリスト4

大館市立城西小学校安全ガードボランティア
副隊長 武石 弘 氏



- ・ 児童の登下校を見守り、一緒に歩行してみるなど、行動をともにしながら危険防止に努めている。
- ・ 学校と地域のつながりが大切である。今後も、学校と地域とが連携して、学校安全に取り組んでいきたい。

パネリスト5

にかほ市立象潟小学校
PTA会長 石澤美沙子 氏



- ・ 家庭でも、震災後、「地震が来たら高い所へ逃げよう」というように、防災について話し合うようになった。
- ・ 学校、地域と連携した避難訓練への参加で、子どもも親も防災意識が高まったように思う。